「第４回 阿武隈川上流緊急治水対策環境委員会」議事録（要旨）

日　　時：令和７年３月１１日（火）～２１日（金）
開催方法：書面開催

～主な委員意見～
＜規約の変更について＞
・意見無し

＜第４回委員会資料について＞
・今回のモニタリング調査・分析結果は、非常に貴重な情報。
・掃流砂・浮遊砂の溜まり方などを分析することで、今後の河道掘削計画・設計の検討に活用できるので、堆積箇所については河床材料の調査を行うと良い。
・砂州高管理の検討について、今回は平均年最大流量を与えているが、例えば過去 20 年の流況データを与えた場合にどのような応答となるかを確認すると良い。
・モニタリング計画の策定時にモニタリング重点監視箇所を絞り込んでいるが、この絞り込み方法が適切であったかどうか、どこかのタイミングで検証を行うと良い。
・鎌田地区の砂州高管理は非常にわかりやすくて良い。民間砂利採取を行う場合も、生息種を確認し、環境への影響が少なくなるような方法とするよう、配慮いただきたい。
・本宮右岸地区の樹木再繁茂箇所については、治水上の問題が生じるかを確認した上で、問題があるのであれば、抜本的対策を検討した方が良い。
・上流遊水地群の整備に当たっては、湿地など、良い環境ができるように配慮して貰いたい。
・鎌田の土砂再堆積の管理基準の方向性が出たのは進展。それぞれの地点での問題に対する基準が出来れば、管理体制が整ってくる。
・生物学的な要素を取り入れた基準を作るのは難しいが、このモニタリングや水国調査をもとに、「阿武隈川らしさ」を踏まえた目標・基準の設定が出来れば大変良い。
・「阿武隈川の指標となる種を保つために○年に一度は手を入れなければならない」といった方向性が出てくると良い。治水対策と環境対策を合わせた管理手法が決まると良い。
・平均年最大流量や、その時の摩擦速度等の水理量と、植物の生育の関係（植物の倒伏、砂州攪乱の有無等）が見られると良い。
・マダケやハリエンジュは根茎や根から萌芽するため、今回の再繁茂状況を踏まえると、より深く掘削し除根する必要があると言える。
・陸地化した場所の掘削は、基本的には河川生態系・河川生物多様性の保全と非常に親和性が良いため、どんどん進めてほしい。
・砂州高管理については、掘削した土砂を河川敷に仮置きして、民間に搬出してもらう形もできると思う。樹木伐採も同様に、民間による伐採をしても良いのでは。
・鎌田地区の二極化対策については、上流の砂防事業や土砂収支との関連についても確認しておくこと。
・過去 10 年間の年最大流量を流してみるなど、バリエーションを増やしてシミュレーションすると良い。
・樹木再繁茂の詳細調査については、樹高だけでなく、樹頂点を確認すると良い。

・定点写真撮影については、簡易カメラを設置し 1 時間ピッチで撮影する、全箇所を UAV で撮影する、といった方法も考えられる。
・毎年環境省で全国一斉の「ガンカモ類の生息調査」が行われており、掘削前後の調査結果を比較することで、掘削後の堆積状況と鳥類の生息場所の関係について、何かわかるかもしれない。
・春から夏にかけては鳥類の繁殖時期に当たるため、樹木伐採を行う際には十分留意すること。
・河道掘削の際に水路を設けて生物に配慮した形の整備を行っている箇所は、カモ類・ハクチョウ類などが利用する可能性がある。
・浜尾遊水地はヨシ原が広がり、生物にとっては貴重な生息場所となっている。上流遊水地の整備において、生物の生息場所となるエリアを設けるということになれば、相談してほしい。
・竹は伐採後も根が残っていればまた生えてくるが、伐採のタイミングによっては生えてこないこともあるようなので、色々と調べながら進めてほしい。
・上流の掘削により下流の流量が増加するので、上下流で調整しながら工事を進めてほしい。